

第1回佐渡観光推進戦略会議議事概要

日時：平成20年12月22日（月）13時30分～15時20分

場所：佐渡島開発総合センター 2階会議室

〈進行：加藤透（社）佐渡観光協会事務局長〉

1 開会

2 開会挨拶

○ 木村英太郎（社）佐渡観光協会理事長

- ・ 平成3年以来苦戦を続けている佐渡観光復興に向けて更に皆様から力を貸してもらいたい。
- ・ これまで、佐渡観光アクション事業、観光ルネサンス事業に取り組み、各種プロモーションやお客様から喜ばれる受入体制の整備、魅力ある観光地づくりなどに取り組んできた。
- ・ しかし、残念ながら佐渡が大きく魅力ある観光地となり、佐渡に訪れたお客様が仲間を連れて大勢の人が再度佐渡を訪れるという状況には未だなっていない。
- ・ 佐渡の人が本気になって、また来て欲しいと自信をもって言える島づくり、また行きたいと言ってもらえる魅力ある島づくり、効果的な力強い誘客対策と情報発信が必要。
- ・ この為に、何を戦略としてかつての賑わいを取り戻せば良いのか知恵を借りたい。

3 挨拶

○ 高野宏一郎 佐渡市長

- ・ 佐渡島はどこに行っても、観光資源は沢山あると言われる状態。
- ・ 来年は大観光交流年だが、県内を通じて大きなイベントや大きなニュースが駆け巡る年になる。
- ・ 佐渡はどのような生き残りをかけていくのか、来年が過ぎた後どのように生きていくのかということも含めて、もう一度見直しをしっかりと、将来の佐渡を考えてもらう時だと思う。
- ・ 県の肝入りでやってもらった佐渡百選、観光ルネサンス事業などで大きな力をもらった。それらを精査して、実を結ぶものであったのかどうか検証いただきたい。
- ・ トキの放鳥が成功した。分散飼育は新しいステージで喜ばしいこと。佐渡が環境のメッカと発信できる機会として大きな力を持った出来事。佐渡島民

の感情を配慮いただきたい。

- 新たなトキが佐渡の島民と触れ合う。どのように演出していくのか、それを定着していくのか、というしくみを考えるということを環境庁に強く訴えてきた。
- 世界遺産は、進み方を遅くしている。これから文化庁と一緒にあって、佐渡の物語を描いてご覧にいたい。
- 佐渡は有り余る資源を持ちながら本当の意味で満足して帰っていただいているのかを考えていただき、検討してもらいたい。
- 来ていただく人に満足してもらえる物語をつくってもらえれば、それに対して最大限の努力ができる。

○ 坂巻 健太 新潟県産業労働観光部観光局長

- 9月のトキ放鳥や佐渡金山の暫定リスト入りと、全国的にも再び佐渡に注目が集まっている。
- それは、トキと佐渡金山だけでなく、ルネサンス事業の充実と、新たな観光素材の開発等、そういった取組が如実に現れてきた結果。
- 地に足のついた取組、より一層の満足度の向上を図っていく取組。これが重要だ。
- トキと佐渡金山を含め質の高い観光地として佐渡が認識されつつあり、それに見合ったサービスを提供しないと駄目だ。
- それを継続的に続けていくには人材の育成が重要。また、街づくり、農業・漁業の関係者、商工の関係者、一般の方たちをあわせての街づくりが重要。
- もちろんインフラも重要。佐渡全体での取組が重要。我々はそれらを受けて支援していきたい。

4 出席者紹介

出席者名簿の配布による。

5 議事

仮議長：木村英太郎（社）佐渡観光協会理事長

（1）佐渡観光推進戦略会議設立趣旨、要綱について

〈事務局：神蔵勝雄（社）佐渡観光協会常務理事〉

（資料 NO1・2 により説明）

「資料 NO1 佐渡観光推進戦略会議設立趣意書」

- 12月22日に、新潟県、佐渡市、観光協会の三者連名で趣意書を配布した。
- 佐渡観光が躍進できるよう新たな組織の構築を図りたい。

「資料 NO2 佐渡観光推進戦略会議(仮称)設置要綱(案)」

- ・ 組織の名称を「佐渡観光推進戦略会議」としたい。
- ・ 佐渡観光のさらなる振興を目的とし、佐渡観光復興戦略の策定及び実施を主な事業とする。
- ・ 委員は無報酬とする。
- ・ 会議に委員長を置き、(社)佐渡観光協会理事長が当たる。また、副委員長及び幹事を委員の互選により選出する。
- ・ 会議を円滑に運営するため、幹事会を置く。幹事は委員長が指名する。
- ・ 委員長が必要と認める場合は、会議に専門部会を置き、観光復興戦略の検討を行なう。
- ・ 専門部会は、幹事長が指名したものをもって構成する。

〔審議〕

〈永松武彦 (株)ゴールデン佐渡取締役社長〉

- ・ 要綱の目的の中に、「佐渡金銀山の文化遺産価値」とあるが、金銀山以外にもある。世界遺産が佐渡金銀山ではない。誤解されると困る。
- ・ 佐渡金銀山に付随して神社仏閣、能だとかも入っている。色んなものが入ってくる。要するに佐渡全島に関係してくる。狭い範囲で捉えられると誤解が生じる。

〈高野宏一郎 佐渡市長〉

- ・ 要するに佐渡全体をイメージするようにしたらどうかということ。

〈事務局：神蔵勝雄 (社)佐渡観光協会常務理事〉

- ・ 佐渡金銀山という言葉に、西三川も鶴子も皆入れているつもり。多くの金銀山という意味だ。

〈高野宏一郎 佐渡市長〉

- ・ それでも、誤解されないように入れておいた方がよい。
- ・ 佐渡の金銀山や文化遺産価値とか。

〈永松武彦 (株)ゴールデン佐渡取締役社長〉

- ・ 佐渡の金銀山に関連する文化遺産とか。

〈事務局：神蔵勝雄 (社)佐渡観光協会常務理事〉

- ・ 佐渡の金銀山に関連する文化遺産価値、ということでは。

〈高野宏一郎 佐渡市長〉

- ・ 金銀山関連の文化遺産ばかりではない。

〈事務局：神蔵勝雄 (社)佐渡観光協会常務理事〉

- ・ 佐渡の金銀山やこれに関連する文化遺産価値では。

〈菅野敦司 観光カリスマ〉

- ・ 佐渡の金銀山などの文化遺産では。

〈仮議長：木村英太郎 社）佐渡観光協会理事長〉

- ・ 佐渡の金銀山の後に、「などの」を入れると他の意味も含めることができる。

〈事務局：神蔵勝雄 社）佐渡観光協会常務理事〉

- ・ 佐渡の金銀山を中心としたではどうか。

〈高野宏一郎 佐渡市長〉

- ・ 文化遺産価値は金銀山に関連しない文化遺産もある、という話になる。あまり言うと混乱してしまう。
- ・ 要するに佐渡の金銀山などの鉱山遺跡の文化、それ以外の文化遺産などもある。

〈菅野敦司 観光カリスマ〉

- ・ 中心としたでは、あまりにも金銀山が強くなってしまいうから、はじめとしたではどうか。

〈仮議長：木村英太郎 社）佐渡観光協会理事長〉

- ・ 他に意見がなければ、「佐渡の金銀山をはじめとした文化遺産価値」とする。
- ・ 名称は佐渡観光推進戦略会議に決定する。
- ・ 要綱については先ほどの意見のとおり修正する。

〈事務局：加藤透 社）佐渡観光協会事務局長〉

- ・ 会議の委員長は、要綱第 5 条第 2 項の規定により木村理事長に願います。
- ・ 会議の議長については、要綱第 7 条第 3 項の規定により委員長に願います。
- ・ 委員総数 23 名のうち、本日の出席者は 17 名で半数を超えている。要綱第 7 条第 4 項の規定により会議は成立。

(2) 佐渡観光推進戦略会議役員を選任について

〈事務局：加藤透 社）佐渡観光協会事務局長〉

(事務局から委員(案)の資料を配布し、提案する。)

- ・ 副委員長については、佐渡市の甲斐副市長、佐渡連合商工会の齋藤会長、新潟交通佐渡(株)の廣川会長を提案。
- ・ 監事については、羽茂農業協同組合の中原代表理事組合長、(株)ゴールデン佐渡の永松取締役社長を提案。

〈議長：木村英太郎 社）佐渡観光協会理事長〉

- ・ 異議なしの声により、案のとおり選任。
- ・ 要綱第 10 条の顧問については、佐渡市の高野市長、北陸信越運輸局の柳原企画観光部長、北陸地方整備局の小池企画部長、大脇港湾空港部長に依頼する。
- ・ 要綱第 8 条の幹事については、委員長に一任し、後日指名とする。

(3) 佐渡観光復興のための主な取組と現状について

〈事務局：岡部欽也 佐渡市産業観光部観光課長補佐〉

(資料 NO3 により説明)

「資料 NO3 佐渡観光復興のための主な取組と現状」

(4) 佐渡観光復興の課題と方向性について

〈事務局：岡部欽也 佐渡市産業観光部観光課長補佐〉

(資料 NO4・5 により説明)

「資料 NO4 佐渡観光復興の課題(案)」

「資料 NO5 佐渡観光復興の方向性(案)」

(5) 佐渡観光推進戦略会議の今後の進め方について

〈事務局：大坂吉和 新潟県佐渡地域振興局地域振興課長〉

(資料 NO6 により説明)

「資料 NO6 佐渡観光推進戦略会議の今後の進め方について(案)」

- ・ アンケート調査を実施して課題等を整理する。
- ・ 次回の会議は、2月頃に開催したい。
- ・ アンケートの回収期限は1月5日とする。

〔意見交換〕

〈菅野敦司 観光カリスマ〉

- ・ 佐渡だけでなく新潟県全体も観光客が減少してきている。新潟県と佐渡の近似している数値で驚いたのが、スキー場の入込客。
- ・ 数について、H13・14年がピークで半減している。佐渡の半減も一致していると考え、日本全国の中での新潟県の観光地としての魅力も相対的に落ち込んでいると言える。
- ・ 観光圏というか新潟県内でどれだけお客様が滞在してもらえるかも考えながら戦略として佐渡の位置づけを考えていかないと大きな転換につながらない。広域連携が重要。
- ・ 資料 NO5 の総合指標の設定の中の①②は抽象的だ。資料 NO4 の 5 にも書いてある⑥平均宿泊日数の拡大、⑦客室稼働率の向上、⑧リピーター率の向上を総合指標として捉えるべきだ。
- ・ 活動指標例その他の指標例の〇〇のところ重要だ。その〇〇の中を埋める為の統計というのは、佐渡において整備されていない。
- ・ もう一つ重要なのは観光地域づくりで、佐渡の中でどれだけ地産地消が進むのか。実際に観光客が島内で消費したものが、どれだけ島内に流通するのかが大切。

- ・ 総合指標に何を持って来るかが重要。それを指標として統計できるような整備が必要。

〈高野宏一郎 佐渡市長〉

- ・ 非常に重要な問題提起。
- ・ 今まで佐渡汽船のデータに頼ってきた。他の観光地はどういった数字の取り方をしていたのか。佐渡の施設のデータの取り方との整合性がしっかりしていないと、先ほど菅野さんが言った数字の整合性もあやふやになってくる。
- ・ 観光も大きく変わった。かつては観光客と見ていなかった交流人口が増加している。この把握も大事だ。

〈坂巻 健太 新潟県産業労働観光部観光局長〉

- ・ 統計の話、目標値とも関連するが、今後県の目標値として、入込客数に加えて、実際に泊まった人数と延べ宿泊者数のデータを作成していく予定。
- ・ これは何をベースにするかというところ、観光庁が昨年からは従業員 10 人以上の全国全施設に毎月回答をしてもらっている。回答率は 8 割。
- ・ 県の平成 19 年は 600 万泊。平成 20 年からは市町村単位で出している。全部の市町村でなくて、観光客の多いところだけ。
- ・ 佐渡の 1～3 月は 3 万泊位。稼働率 1～3 月で 6%。今年の方は来年の 3 月末には出てくる。こういったデータを指標とするのも一つだと思う。ただし、消費額、満足度とかの追い方が難しい。

〈三辻謙三 佐渡観光旅館連盟会長〉

- ・ この案を見ると、今まで問題になった点を並べているだけだ。戦略の具体的な案がない。
- ・ 旅館は営業して歩いている。営業で観光客が来ていると思う。会議では理論だけで、営業をしていない。営業に力が入っていない。
- ・ お客様が佐渡に何を求めているかを分析していない。そういったところが佐渡の弱さだと思う。
- ・ 地産地消というが、旅館が何を求めているのか、板前が何を使いたいのかといったアンケート調査もしていない。具体的な方法、手段を考えて欲しい。

〈高野宏一郎 佐渡市長〉

- ・ 観光と地産地消をどう結ぶか、新しい結びつきを考えている。ここで議論するのではなくて、別の機会で説明したい。

〈議長：木村英太郎 社）佐渡観光協会理事長〉

- ・ 戦略について具体的な提案があった。幹事会、専門部会で多めに議論して方策を立ててもらいたい。

〈中原雅司 羽茂農業協同組合代表理事組合長〉

- ・ 平成 14 年のアクションプラン策定の時も関わった。その時は県振興局中心で 1 億円規模の取り組みだった。戦略会議の規模はどのくらいか。

〈坂巻 健太 新潟県産業労働観光部観光局長〉

- ・ 事業計画を作るなかで、具体的な事業を決めていき、予算を付けていく。
- ・ ルネサンス事業と同等の規模（3千万円）と考えている。

〈中原雅司 羽茂農業協同組合代表理事組合長〉

- ・ 3千万円位と考えてよいのか。

〈坂巻 健太 新潟県産業労働観光部観光局長〉

- ・ 事業の中身次第。無理やり3千万にしていける必要はない。

〈中原雅司 羽茂農業協同組合代表理事組合長〉

- ・ ルネサンス事業の時、佐渡汽船が高すぎると意見を新聞の記事等で発言した。
- ・ その時に比べ、今は佐渡汽船の料金も変化した。3千円のJFが出るなど動きが出てきた。折角立ち上げたのだから、広い範囲で意見を聞いて欲しい。
- ・ 観光客が往来時に見る商店街のシャッターを何とか下ろさないでいてもらいたい。人間味のない姿をなくして欲しい。細かいことだが、小さいことを実行するグループが地域を活性化していく。
- ・ 我々も一次産業として物を作る立場にある。休耕田も多い。南部旧3町村の代表が集まって新しいものづくりが始まっている。自分たちの範囲の中で一生懸命取り組んでいきたい。
- ・ 新潟県とか日本の政策に影響を受けながらの佐渡のあり方だと思うが、地に足を付けたことから始めるべき。（トイレの問題とかも）
- ・ 羽田と佐渡が早く結びついてもらえば、今と違う人たちの入込があると思う。
- ・ アクションから旅館の考え方も変わっている。地の物を出そうという意識にもなっている。こういう会議をただ立ち上げて終りというのではなく、佐渡の色々な部分を紹介していけたらよいと思う。

〈斎川正幸 新潟県佐渡地域振興局長〉

- ・ この戦略会議が佐渡観光の継続的なリーダーを育てる会議になって欲しい。
- ・ アクティブな情報発信、受身でなく能動的に佐渡観光を売り出していくという姿勢、小さな成功例の積み重ね、旅館等で努力をしているようなことを集めながら、隣が出来るなら家でも出来るじゃないかという行動が大事。
- ・ 佐渡から全国への情報発信という両面で、予算も大事だが気構えも大事。

〈大脇崇 北陸地方整備局港湾空港部長〉

- ・ 佐渡の観光もどこの観光も同じだが、ソフトとハード両面合わさってうまく機能する。
- ・ 毎年クルーズ船が佐渡に寄る。仕事を辞めて時間と予算にゆとりのある世代がクルーズ船を利用している実態がある。佐渡にクルーズ船が着く場所を確保出来たらいい。

- ・ 先般、大間港を見せてもらって驚いた。すごい施設だと感じた。50・60代は文化遺産的なところを評価する。文化、歴史、自然を評価する割合が高い。
- ・ 50・60代を狙った観光をハード・ソフト、宣伝を1パッケージで考えるといいのではないか。
- ・ 以前、川崎市にいた時にボーイスカウトの子どもたちがキャンプに行くのに佐渡が良いのではと話が出た。そういう人たちもリピーターを形成するのではないか。
- ・ どの辺りの層を狙った、というイメージの戦略が作られると良いのではないか。

〈議長：木村英太郎 社）佐渡観光協会理事長〉

- ・ 佐渡みなとまち活性化協議会も佐渡市で立ち上げていて、その中でも佐渡でどこか1ヶ所クルーズ船が着岸できる港が欲しいと声が出ている。
- ・ 現在、両津港、小木港、羽茂港、二見港はいずれも水深が7m50で、それ以上の水深の所はない。国内でクルーズしている船は水深8m位あれば入港できるが、今の飛鳥IIは9m以上必要だ。
- ・ 岸壁には着けないが、テンドーボートを使ったり、渡し舟で年に数回来ている。
- ・ クリッパーオデッセイは5千トン位の船で、二見港に年に2・3回入っている。大きいクルーザー2万トンクラスの船が着岸できる港がない。

〈菅野敦司 観光カリスマ〉

- ・ 新潟県でプラスの部分でいうと、体験、癒し、健康、知識欲、祭り、イベント、温泉、産業観光が伸びている。
- ・ 日本の観光には必ず温泉というのが重要要素。佐渡には良い温泉があるが、温泉というイメージがない。泉質は豊富だ。佐渡の観光に温泉というキーワードが付けば大きな魅力になる。
- ・ 新潟県の観光客が増加している部分には温泉が入ってきているが、佐渡にはない。
- ・ 要綱の目的に、環境と歴史と体験というキーワードが入っている。受動的に体験するのではなく、学んでいくという観光の新しいメニューを作っていくことが大事。
- ・ 佐渡太鼓体験交流館は初年度1年間で9,600人程の施設来場者があった。今年は10月段階で既に1万人を超えている。
- ・ きちっと体験するものを提供して実績を積み上げていけば、数字が上がっていくのは確実。他の体験施設でも同じ。
- ・ 佐渡では一次産業の体験も必要。子どもたちには大きい。
- ・ 目指していく中身として、自然、環境・歴史を、体験を通じて提供していくと良い。

- ・ どういう形で結果が出てきているか数字的にも押さえられる指標を作っていけば良い。

〈井上由香 エコツーリズム協議会〉

- ・ 資料の中に佐渡ツーリズムの開発と出ている。これは着地型メニューのことと理解してよいか。佐渡観光協会では着地型メニューを作っているが、そのことか。

〈事務局：岡部欽也 佐渡市産業観光部観光課長補佐〉

- ・ 他にはない佐渡の新しいツーリズムという意味。オプションツアーとかを限定して言っているのではない。

〈井上由香 エコツーリズム協議会〉

- ・ 佐渡ツーリズムという言葉の定義をもう少し明確な方が目標として共有しやすい。どういうものを目指すのか幹事会で練ってもらいたいと思う。

〈小池裕明 東日本旅客鉄道新潟支社営業部販売課長〉

- ・ 資料 NO5 で方向性が示されているが、非常に内容が濃いと思う。
- ・ 来年の大観光交流年をきっかけに3・4年の計画とあわせて、より具体的な取組へ落とし込んでいくことが必要だと思う。

〈甲斐元也 佐渡市副市長〉

- ・ 資料 NO5 にあるものは正しいと思う。全部出来れば大変なことになる。
- ・ これから幹事会を開いて戦略・戦術を組んでいく。
- ・ 佐渡観光で今まで一番欠けていたのは、いろいろな事が書いてあるけれども、それが実際足となって動いていないということ。
- ・ いろいろな意見があると思うが佐渡観光復興の方向性をどう具体的に潰していくか、どう行動するか、それを皆で意思統一していくのが大事。

〈議長：木村英太郎 社）佐渡観光協会理事長〉

- ・ 戦略は中・長期とあるが、一番大事なのは当面の誘客とエージェント対策、受入体制をどうするかだ。
- ・ 今日いただいた意見は今後の幹事会での議論に充分反映をさせてもらいたい。佐渡観光の復興に結び付けていきたいと思う。

〈中原雅司 羽茂農業協同組合代表理事組合長〉

- ・ 直江兼統の件をお願いしたい。

〈議長：木村英太郎 社）佐渡観光協会理事長〉

- ・ 来年は天地人を佐渡観光に結びつけていきたい。

6 閉会挨拶

○ 永松武彦 (株)ゴールデン佐渡取締役社長

- ・ 来年は大観光交流年、国体、DCと計画されている。今までの下落傾向から反転すると感じていた。

- しかし、先週グループ会社の社長が集められ、現状は非常に厳しいと言われた。人員削減、新規の投資は将来見込めるものだけ等の話があった。
- 佐渡観光全体にとっても、この会議を通じて情報を共有しながら対策を考えていく意味では重要。
- ハードではなくソフトの部分をいかにうまくつくっていくか、それが機能しないとこの会議はうまくいかない。